

Answer 2 学校と家庭の「関係づくり」が支援体制の要です

大切なのは、子供が学校生活で感じている「困り感」や「困難さ」を解消する手立てを具体化することです。そのためには、学校での気付きと家庭での気付きや心配などを相互に交流させて、まずは、一緒に考えていく関係を作る必要があります。

学校と家庭、つまりその子供に関わる大人が「その子のために」という意識で相談し合える関係が無ければ、「困り感」や「困難さ」を改善する取組は始まりません。

ご家庭でも、子供はサインを出しています！

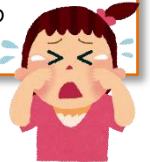
お子さんの得意なこと、苦手なことをよく見てみよう



ご家庭でも、お子さんの「言葉が遅い」「特定のものへのこだわりが強い」「動作がぎこちない」「集団行動がとれない」などに気付き、心配になったことがあると思います。その状態が成長とともに変わっていくものなのか、学校のような集団の中ではどうなのか、気になるところだと思います。

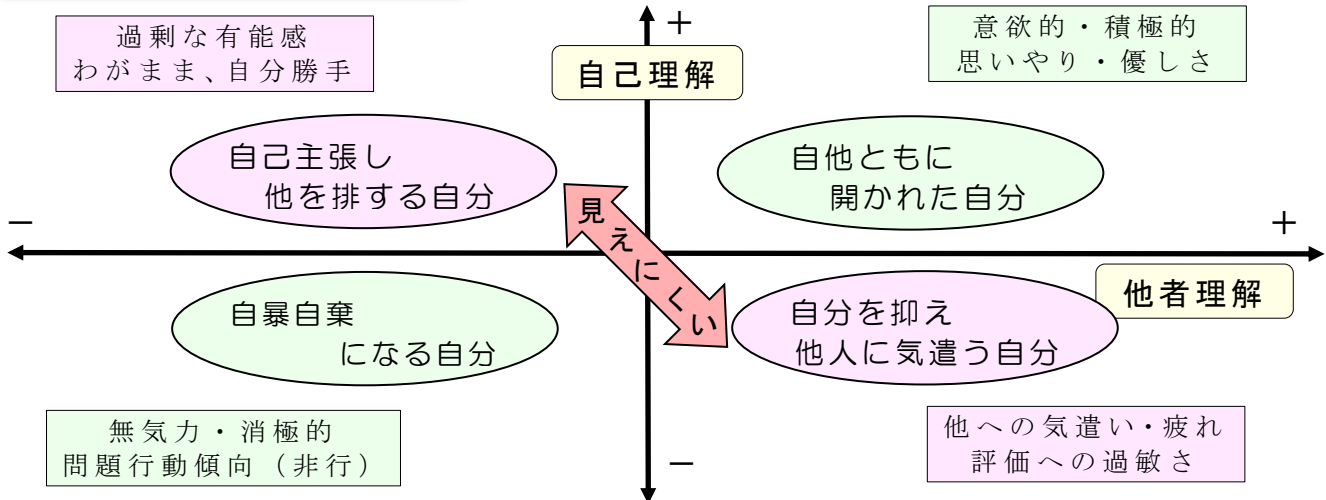
お子さんの困り感

特別な支援を必要としているお子さんは、学校生活の中で一生懸命やっているのに勉強がうまくいかない、周囲についていけない、忘れ物をして先生から叱られるなど、成功体験が少なく、ストレスをため込んで、自信を失っている場合があります。

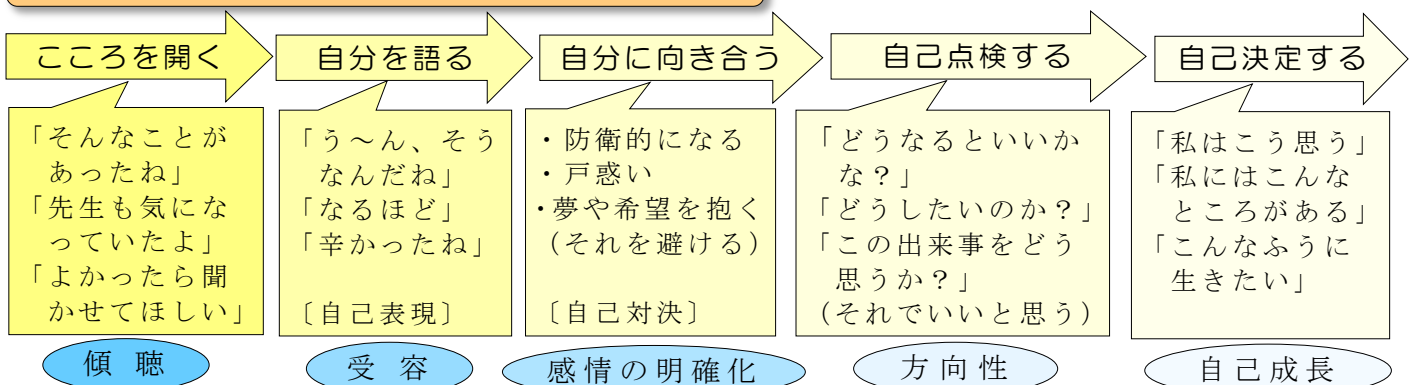


子供の自他理解の援助

自他理解のバランス



セラピー関係 5つの基本ステップ



STEP 2

STEP 2 「ちょっと心配…」と思ったら、チェックしてみましょう

*□の中に次のあてはまる様子の数字を入れてみましょう。
あまりない…1 ときどきある…2 よくある…3

- ① 持ち物をなくすことが、たびたびある。 □
- ② 身の周りのものを片付けられない。 □
- ③ 手足をそわそわ動かしたり、椅子の上でもじもじしたり、じっとしてられない。 □
- ④ しゃべってはいけないところで、おしゃべりがやめられない。 □
- ⑤ 質問が終わらないうちに、答えてしまう。 □
- ⑥ 順番が待てないことが、たびたびある。 □
- ⑦ 会話している相手と目が合わないことがよくある。 □
- ⑧ 人の話を聞いていないように見える。 □
- ⑨ 同じ年齢の友達と複数で遊ぶことを嫌がる。 □
- ⑩ ちょっとしたささいなことで、怒り出すことがたびたびある。 □
- ⑪ 決まっているルールにしたがって遊ぶことが苦手。 □
- ⑫ 同じ姿勢を長く続けていることが苦手。 □
- ⑬ すぐに泣きだし、なかなか泣きやまない。 □
- ⑭ 文字や数字を写すと左右が入れかわってしまう。 □
- ⑮ くつの左右をまちがえてはくことがたびたびある。 □



点数が高い所があり少し心配だ

日頃の心配と一致している所が多い

このような様子が見られる子供は、45分間の授業や集団のルールにそって行動することに、「困り感」や「困難さ」を感じています。それは、私たち大人が想像する以上のものようです。

家族だからこそできる子供への温かい支援

家庭内では、小さな成功体験の場を作ったり、よいところをほめたりしてください。また、好きな遊びの時間を作ったり、自信を付けさせたりするなど、子供にとって「居心地のよい」空間であることが大切です。

そのためには、学校で行われている活動や子供の様子などについて、学校公開や担任との会話などを通して、子供の理解を深めていきたいものです。

保護者は、子供の養育者であり、よき支援者でもあります。時として叱ったり、厳しく教えたり、そうした中でも子供が常に親の愛情を感じ取れるように心がけ、子供の心を支え続ける良き理解者として、共に歩いていけるようにしたいものです。

そのためには、子供の特性を深く理解できる保護者としての「学習」も必要となります。

気がかりな時は

気軽に相談して
みましょう

いつでも

(学校以外にも相談できる窓口はたくさんあります。詳しくは本校ホームページをご覧ください。)